

# 神奈川大学21世紀 COEプログラムの 歩みを振り返る

ご挨拶

## 世界に、そして未来へ

神奈川大学学長 中島 三千男  
NAKAJIMA Michio



神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」が、大きな成果を残して5年間の活動を閉じようとしていることに対して、大変感慨深いものがあります。と申しますのも、私は、このCOEプログラムが採択された2003年、当時の学長であった山火前学長の下で、本学の研究活動を担当する副学長として、21世紀COEプログラム拠点形成委員会の委員長に就任、COEプログラムの活動と本学の他の活動をつなぐ役割を4年ほど務めました。また、それだけではなく、昨年4月、学長に就任するまで、私自身、事業推進担当者の一人として、4年間にわたってこの活動に直接携わっていたからです。

このCOEプログラムは文部科学省が国際競争力のある大学を作り上げるために、世界的な研究教育拠点を形成しようとして始めた国家的プロジェクトでありました。神奈川大学のCOEプログラムは、この5年間の活動の成果として最終（本）年度に公刊するものだけでも、「関東大震災写真データベース」など多数のデータベース、『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』（第1巻）他17冊の研究成果報告書など、多数にのぼり、文部科学省の期待に十分に応えるものであったと確信しております。

しかし、私はこの5年間のCOEプログラムの活動の中で最大の成果は、神奈川大学と世界の研究機関との間で、未来を担う若手の研究者たちの交換が出来たことであると考えております。中国、韓国、カナダ、ブラジルの8研究機関からこの4年間に24名もの若手研究者を招聘、また逆にそれらの機関にこの4年間に、本プログラムのPDやRAを中心に13名を派遣して調査研究活動に従事してもらいました。神奈川大学が世界的な研究拠点として世界に、そして未来へ羽撃いていく上で大きな財産を築いたものと考えております。

COEプログラムは本年度で終了するわけですが、その活動は「神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター」に受け継がれて行きます。大学としても、引き続きその活動に対して全面的な支援を行っていく決意です。また、そのことによって本学を「個性輝く大学」「国際競争力のある大学」にしていきたいと考えております。

最後になりましたが、5年間の本学のCOEプログラムに関わっていただきました、国内外の多くの皆様方、お一人ひとりに対して、深甚の謝意を表させていただきます。